

肝がんに対する新しい経口薬続々登場。待ってました!! “レンバチニブ” ついにあのソラフェニブを凌駕?

肝臓川柳

ついにキター!! レンビマ効き目は トレビア〜ン♪
(トレビア〜ン…トレビマ〜ン…トレビマン…レビマ…レンビマ)

レンビマ(レンバチニブメシル酸塩)が、2018年3月23日に切除不能肝細胞がんに対し、適応追加されました。甲状腺がんに適応があった分子標的薬です。

これまで10年以上、肝細胞がんに対する経口抗がん剤(分子標的薬)は、ソラフェニブしかありませんでしたが、レンビマは、ソラフェニブに対して、生存期間で「非劣勢」が証明されたばかりなく、奏効率ではソラフェニブの2倍以上の改善がみられています。

主な副作用は、高血圧、下痢、食欲減退、体重減少、疲労などですが、ソラフェニブでやっかいだった手足症候群(手足が剥ける)の発生が少ないのが特徴です。

効果が高く、副作用も重篤なものが少なく、ソラフェニブを凌駕して、切除不能肝細胞がんに対する経口抗がん剤一次治療の「第一選択」になりうる画期的な新治療です。

特に、他の治療(肝動脈塞栓術、動注化学療法など)が効かなくなった、まだ肝予備能(肝臓の力)が良い肝細胞がんの方には、大変な福音となっています。



これだけ覚えておいて損はない! 今回のポイント

“レンビマ”が切除不能肝細胞がんに適応が追加されました。
従来薬に比べて効果が高く、副作用も重篤なものが少なくなっています。
切除不能な場合の、経口抗がん剤一次治療の第一選択になりうる画期的な新治療です。

(文: 福井県肝疾患診療連携拠点病院(福井県済生会病院) 肝疾患センター長 野ツ俣 和夫)